



# Newsletter

一般社団法人 日本教育社会学会 2025年12月

170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2-401 ガリレオ学会業務情報化センター内

---

## 目次

---

会長再任のごあいさつ	1
第78回大会のご案内	1
2024事業年度決算・2025事業年度予算について	2
会計部からのお知らせ	11
広報部からのお知らせ	11
会員管理部からのお知らせ	11
研究委員会からのお知らせ	11
国際委員会からのお知らせ	12
学会賞選考委員会からのお知らせ	12
倫理委員会からのお知らせ	13
大型プロジェクト特別委員会からのお知らせ	13
選挙管理委員会からのお知らせ	14
教育関連学会連絡協議会担当理事からのお知らせ	14
社会調査協会担当理事からのお知らせ	14
人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 (GEAHSS) 担当理事からのお知らせ	14
2025-2026学会年度 代議員・理事・事務局・委員等の構成	16
代議員総会の記録	17
理事会の記録	19
寄贈図書	23
新入会員／所属変更	24

---

## 会長再任のごあいさつ

---

酒井 朗（上智大学）

前期に引き続き、会長を拝命いたしました。今期も引き続きどうぞよろしくお願ひ申し上げます。前期の学会運営では、多くの皆さまにご協力をいただき、無事に活動を進めることができました。改めて心より感謝申し上げます。また、今期に各部署をお引き受けくださった皆さまにも、この場を借りてお礼申し上げます。

2年前の法人化以降、本学会は一般社団法人のルールに則り運営しています。その過程で、会計処理や規則の整備など、これまでの仕組みを見直してまいりました。発足当初は会費納入手続きの遅れなどでご不便をおかけしましたが、現在は運営も落ち着き、事務も発足当初よりは安定し

てきたかと思います。

今期は、学会の活動をさらに活性化し、社会への発信力を高めていくために、前期に引き続きいくつかの重点的な取り組みを進めていきます。

第一に、各地区での研究活動を支援します。前期に設置した「地区活動検討特別委員会」の報告を踏まえ、今期は実際に各地区に担当代議員を置き、研究活動を支援してまいります。シンポジウムやセミナー、交流イベントなどを企画できるようサポートします。特別会計を原資として、2年間で各地区に上限20万円を支給する予定です。各地区で無理のない範囲で活動を展開していただければと思います。今期からは、この事業を統括する「地区活動担当理事」のポストも新設しました。

第二に、若手研究者の支援をさらに充実させます。若手研究者交流会の開催など、会員の研究力支援の取り組みとともに、研究者間のネットワークの構築や研究活動の発信力の強化にも努めたいと考えています。

第三に、国際化の推進です。会員の国際的な研究活動を支援するため、オンラインセミナーの実施などを引き続き行なっていきます。また、昨年度に試行的に実施したオンライン国際会議を継続し、その運営上の課題を検討しながら、今後の展開を図ってまいります。

このほか、会員の研究倫理に関する新たな規程の策定を検討するとともに、いくつかの懸案事項についても引き続き検討・実施していく予定です。学会は、会員同士がつながり、学術交流を深める場であると同時に、研究成果を社会へ発信するための大切な基盤でもあります。皆さんとともに、より開かれ、活気ある学会をつくっていかなければと思います。

引き続きご支援・ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

---

## 第78回大会のご案内

---

日本教育社会学会第78回大会は、法政大学市ヶ谷キャンパスを会場とし、2026年9月3日（木）、4日（金）に開催いたします。法政大学で大会校をお引き受けするのは初めてのことです。2025年の学会大会が11月でしたので、

少し慌ただしい準備日程になります。対面での開催を目指し、大会実行委員の先生方や研究委員会、年次研究大会支援部など、多くのお力を借りながら、充実した大会になるよう準備を進めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

本学は1880年に設立された東京法学社から数えて145年の歴史を持つ総合大学で、市ヶ谷・小金井・多摩の3キャンパス、あわせて15学部38学科を有しています。旧江戸城の外濠沿いに位置する市ヶ谷キャンパスは、JRや地下鉄が乗り入れる飯田橋駅や市ヶ谷駅のほか、地下鉄九段下駅から徒歩圏内にあり、駅から続く桜並木の濃い葉陰が、みなさまをお迎えいたします。キャンパスはやや手狭ではありますが、2019年に再開発が完了し、高い利便性を備えた都市型キャンパスとして生まれ変わりました。また、キャンパスの裏手には靖国神社、その奥には北の丸公園と千鳥ヶ淵緑道が広がっており、国内外からの多くの観光客とともに散策をお楽しみいただけます。部会のあとには神楽坂で、歴史ある街並みと美酒佳肴をお楽しみください。なお、東京都心には多くの宿舎がございますが、昨今の事情に鑑み、早めの手配をお勧めいたします。

大会実行委員一同、みなさまのご参加を心よりお待ち申し上げております。

日本教育社会学会第78回大会実行委員長 寺崎里水（法政大学）

## 2024事業年度決算・2025事業年度予算について

2025年9月27日に開催された理事会・代議員総会において承認されました2024事業年度決算および、2025年7月26日に開催された理事会において承認されました2025事業年度予算について説明申し上げます。

### 1. 2024事業年度決算について

#### 1.1 概要

全体では、当期経常収益計は18,022,265円であり、予算を234,765円上回りました。また当期経常費用計は、16,455,944円であり、予算額を2,104,056円下回りました。当期経常収益計から経常費用計を引いた額は1,566,321円であり、予算を2,338,821円上回りました。

前年度からの繰越金39,475,063円に、当期の経常収支1,566,321円をくわえ、法人税・住民税及び事業税86,300円差し引いた40,955,084円が次年度繰越金となります。

### 1.2 収入

#### [受取会費]

一般会員会費（当年度分）納入額は12,331,000円でした。納入者は1,121名であり、前年度より31名増加しております。納入率は90.2%でした。また、過年度分の納入額は1,219,500円でした。

院生会員会費（当年度分）納入額は1,246,000円でした。

納入者は178名であり、前年度より14名増加しております。納入率は96.7%でした。また、過年度分の納入額は91,000円でした。

留学生会員会費（当年度分）納入額は170,500円でした。納入者は31名であり、前年度と同人数となっております。納入率は75.6%でした。また、過年度分の納入額は5,500円でした。

団体会員会費は1団体からの納入がありました。

#### [事業収益]

本年度より大会参加費収入が事業収益として計上されるようになりました。計上されているのは第76回大会（2024年9月開催）の参加費で、2,375,000円の収入があり、予算額を175,000円上回りました。

広告収入は予算を30,000円下回りました。大会受取補助金は第76回大会開催地である長野市の関連団体からの補助金で、89,000円の収入がありました。

#### [雑収益]

受取利息は、全口座で合計27,109円の収入があり、予算額を26,109円上回りました。なお、このうち特別会計（GMOあおぞらネット銀行）の利息は、研究奨励・学会活動活性化基金に組み入れております。

雑収入は、「教育社会学事典」の印税の入金136,656円があり、予算を163,344円下回りました。

### 1.3 支出

#### [事業費]

大会経費は、合計3,152,619円で、予算を647,381円下回りました。支出の内訳は、大会委託費（コームラ社・ガリレオ社）2,188,361円、大会会場費（信州大学）179,080円、大会人件費562,364円、大会諸経費129,648円、大会支払手数料93,166円となっております。

紀要刊行費は予算を136,863円下回りました。ブリテン刊行費は、予算を39,800円上回りました。オンラインジャーナル化費は、予算を261,290円下回りました。

編集委員会経費は予算を115,888円下回りました。研究委員会経費は予算を197,012円下回りました。学会賞選考委員会経費は予算を136,854円下回りました。国際委員会経費は予算を18,863円下回りました。

トラベルグランントは第76回大会から新設されたもので、6名に対して3万円ずつ支給されました。特別会計の研究奨励・学会活動活性化基金より支出しております。

予備費の支出はなく、予算を50,000円下回りました。

#### [管理費]

会計士顧問料は、前年度の税務申告報酬および本年度の顧問料の合計330,000円で、予算を50,000円下回りました。

代議員選挙費は、2年に1度開催される代議員選挙の経費を毎年度おおむね半額ずつを支出するために400,000円の予算を組んでおりますが、選挙システムのオンライン化に伴い、実際の経費は減少傾向にあります。本年度は選挙実施年にあたり490,050円の支出があり、予算を90,050円上回りました。

理事会・事務局経費は以下①～⑫の項目の合計5,830,245円の支出があり、予算を619,755円下回りました。

①交通費は167,558円の支出があり、予算を332,442円下回りました。

②会議会合費は、3月に開催された若手研究者交流会の補助費（参加費補填）として55,621円の支出があり、予算を5,621円上回りました。

③事務アルバイト費は支出がなく、予算を90,000円下回りました。

④事務委託費は委託先のガリレオ社等に支払ったもので、4,284,995円の支出があり、予算を184,995円上回りました。ガリレオ社の業務委託料の増額などが影響しております。

⑤印刷費は予算を63,522円下回りました。⑥通信費は予算を30,982円下回りました。⑦消耗品費は予算を65,434円下回りました。⑧資料保管料は予算を3,367円下回りました。

⑨事務局事業費は予算を245,000円下回りました。

⑩会費支出は、教育関連学会連絡協議会および人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）の分担金として支出しているものです。このうち、教育関連学会連絡協議会の会費が時限的に半額（5,000円）となっていることから、本年度は予算を5,000円下回りました。

⑪雑費は、ネットバンキング使用料やカード決済手数料などで、予算を79,776円上回りました。会費・大会参加費のカード決済が増加していることに伴い、支出が増えております。

⑫租税公課は、理事変更に伴う謄本の発行料や諸税等に15,600円の支出がありました。予算は法人税を含んだ金額となっておりますが、これは経常外費用として別途計上されているため、租税公課に関しては予算よりも54,400円下回っておりました。

#### 〔経常外費用〕

法人税に86,300円の支出がありました。これは予算編成時には租税公課に含まれていた項目です。租税公課の支出に法人税額を足した合計額（101,900円）は予算を31,900円上回りました。

#### 1.4 特別会計決算

特別会計は学会運営の安定化と学会活動の活性化を図るための学会運営基本基金と、それ以外の研究奨励・学会活動活性化基金の2つの用途に分けられており、本年度初めの時点でGMOあおぞらネット銀行に学会運営基本基金15,158,028円、研究奨励・学会活動活性化基金は1,468,318円（合計16,626,346円）の財産がありました。

本年度は、学会運営基本基金に変動はありませんでした。研究奨励・学会活動活性化基金は、支出はトラベルグラント180,000円であり、収入は7月の理事会にて承認された一般会計（楽天銀行）からの繰り入れ5,000,000円と、受取利息14,929円でした。本年度末の時点での資産は、学会運営基本基金15,158,028円、研究奨励・学会活動活性化基金6,303,247円（合計21,461,275円）となっております。

なお本年度より、特別会計が特定の目的のために使途の制約が課せられた資産として固定資産（特定資産）に計上されております。

## 2. 2025事業年度予算について

### 2.1 概要

2024事業年度から開始されたコームラ社への大会運営の委託（約170万円）が継続することを、予算編成において考慮しました。また本学会の法人化によって新たにかかる費用である、ガリレオの固定事務委託費の増額（年間約36万円）、会計士顧問料（年間約38万円）、法人税等（年間10万円弱）は、今後も継続的に必要となります。

これらの大きな要因を踏まえつつ、特別会計からの支出を除いた単年での経常収支を約40万円の赤字と設定しました。

### 2.2 収入

会費収入は例年通り、過去3年間の会費納入率を勘案しながら算定しました。納入率は各区分に対して、過去3年の平均を用いて算出しました。

大会参加費は過去2年間の値を参考に、220万円と設定しました。大会広告収入は過去3年間の値を参考に、32万円としました。

受取利息は市場金利の上昇を考慮し、10,000円に増額しました。雑収入は前年度と同じく30万円と設定しました。

### 2.3 支出

#### 〔事業費〕

大会経費については、コームラ社への委託費用を170万円、ガリレオに支払う運営手数料を60万円、人件費・会議費・消耗品費などを150万円と見積もり、前年度と同額の計380万円と設定しました。

紀要刊行費は掲載される論文数によって変動しますが、前年度と同額の560万円とした。

ブリテン刊行費は前年度と同額の20万円としました。オンラインジャーナル化費は前年度と同額の40万円としました。

各委員会の経費は、国際委員会については30万円に増額し、他は前年度と同額としています。

トラベルグラントは、1件3万円×5件を目安とするという2024年3月理事会における決定を踏まえ、15万円として設定しました。特別会計のうち、「研究奨励・学会活動活性化基金」から支出します。

地区活動活性化経費は新設の項目であり、2年間で20万円×8地区=160万円の支出を見込んでいます。特別会計のうち、「研究奨励・学会活動活性化基金」から支出します。

予備費は前年度と同額の5万円としました。

#### 〔管理費〕

会計士顧問料は前年度と同額の38万円としました。

代議員選挙費はオンライン化による経費削減を考慮し、25万円に減額しました。なお選挙は隔年実施ですが、予算額を安定させるために、一度にかかる費用を約半分ずつ毎年計上しております。

交通費は実績を考慮し、40万円に減額しました。会議会合費は前年度と同額の5万円としました。事務アルバイト

ト費は実績を考慮し、7万円に減額しました。

事務委託費は前年度と同額の410万円としました。

印刷費は前年度と同額の10万円としました。通信費は前年度と同額の80万円としました。

消耗品費は前年度と同額の10万円としました。資料保管料は前年度と同額の7万円としました。

事務局事業費は実績を考慮し、25万円に減額しました。

会費支出は前年度と同額の2万円としました。

雑費は実績を考慮して、30万円に増額しました。

租税公課は、法人税等として10万円を設定いたしました。

(前会計部長：小川和孝)

# 収支計算書

2024年 8月 1日から 2025年 7月 31日まで

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 受取会費	( 14,936,500)	( 15,074,500)	( △138,000)	
一般会員会費(当年度)	12,262,250	12,331,000	△68,750	
院生会員会費(当年度)	1,114,750	1,246,000	△131,250	
留学生会員会費(当年度)	205,205	170,500	34,705	
一般会員会費(過年度)	1,212,750	1,219,500	△6,750	
院生会員会費(過年度)	110,250	91,000	19,250	
留学生会員会費(過年度)	20,295	5,500	14,795	
団体会員会費	11,000	11,000	0	
② 事業収益	( 2,550,000)	( 2,784,000)	( △234,000)	
大会参加費収入	2,200,000	2,375,000	△175,000	
大会広告収入	350,000	320,000	30,000	
大会受取補助金	0	89,000	△89,000	
③ 雑収益	( 301,000)	( 163,765)	( 137,235)	
受取利息	1,000	27,109	△26,109	
雑収入	300,000	136,656	163,344	
経常収益計	17,787,500	18,022,265	△234,765	
(2) 経常費用				
① 事業費				
事業経費	( 11,330,000)	( 9,805,649)	( 1,524,351)	
大会経費	3,800,000	3,152,619	647,381	
紀要刊行費	5,600,000	5,463,137	136,863	
ブリテン刊行費	200,000	239,800	△39,800	
オンラインジャーナル化費	400,000	138,710	261,290	
編集委員会経費	250,000	134,112	115,888	
研究委員会経費	400,000	202,988	197,012	
学会賞選考委員会経費	200,000	63,146	136,854	
国際委員会経費	250,000	231,137	18,863	
トラベルグランント	180,000	180,000	0	
予備費	50,000	0	50,000	
事業費計	11,330,000	9,805,649	1,524,351	
② 管理費				
会計士顧問料	380,000	330,000	50,000	
代議員選挙費	400,000	490,050	△90,050	
理事会・事務局経費	6,450,000	5,830,245	619,755	
交通費	500,000	167,558	332,442	
会議会合費	50,000	55,621	△5,621	
事務アルバイト費	90,000	0	90,000	

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
事務委託費	4,100,000	4,284,995	△184,995	
印刷費	100,000	36,478	63,522	
通信費	800,000	769,018	30,982	
消耗品費	100,000	34,566	65,434	
資料保管料	70,000	66,633	3,367	
事務局事業費	300,000	55,000	245,000	
会費支出	20,000	15,000	5,000	
雑費	250,000	329,776	△79,776	
租税公課	70,000	15,600	54,400	
管理費計	7,230,000	6,650,295	579,705	
経常費用計	18,560,000	16,455,944	2,104,056	
評価損益等調整前当期経常増減額	△772,500	1,566,321	△2,338,821	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	△772,500	1,566,321	△2,338,821	
2 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△772,500	1,566,321	△2,338,821	
税引前当期一般正味財産増減額	△772,500	1,566,321	△2,338,821	
法人税、住民税及び事業税	0	86,300	△86,300	
当期一般正味財産増減額	△772,500	1,480,021	△2,252,521	
一般正味財産期首残高	39,475,063	39,475,063	0	
一般正味財産期末残高	38,702,563	40,955,084	△2,252,521	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	38,702,563	40,955,084	△2,252,521	

## 貸 借 対 照 表

2025 年 7 月 31 日 現在

(単位 : 円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金・預金	19,011,787	38,786,877	△19,775,090
未収会費	2,103,500	1,141,500	962,000
前払金	280,500	294,470	△13,970
前払費用	374,422	376,107	△1,685
流動資産合計	21,770,209	40,598,954	△18,828,745
2 固定資産			
(1) 特定資産			
積立資金	21,461,275	0	21,461,275
学会運営基本金	15,158,028	0	15,158,028
研究奨励・学会活動活性化基金	6,303,247	0	6,303,247
特定資産合計	21,461,275	0	21,461,275
(2) その他固定資産			
出資金/社会調査協会基金	1,000,000	1,000,000	0
その他固定資産合計	1,000,000	1,000,000	0
固定資産合計	22,461,275	1,000,000	21,461,275
資産合計	44,231,484	41,598,954	2,632,530
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払金	1,102,450	882,191	220,259
前受金	48,150	52,000	△3,850
前受会費	1,984,500	1,134,500	850,000
仮受金	55,000	0	55,000
未払法人税等	86,300	55,200	31,100
流動負債合計	3,276,400	2,123,891	1,152,509
負債合計	3,276,400	2,123,891	1,152,509
<b>III 正味財産の部</b>			
1 一般正味財産	40,955,084	39,475,063	1,480,021
(内特定資産への充当額)	( 21,461,275 )	( 0 )	( 21,461,275 )
正味財産合計	40,955,084	39,475,063	1,480,021
負債及び正味財産合計	44,231,484	41,598,954	2,632,530

## 正味財産増減計算書

2024年 8月 1日から 2025年 7月 31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取会費	( 15,074,500)	( 13,756,000)	( 1,318,500)
一般会員会費(当年度)	12,331,000	11,715,000	616,000
院生会員会費(当年度)	1,246,000	1,148,000	98,000
留学生会員会費(当年度)	170,500	170,500	0
一般会員会費(過年度)	1,219,500	632,000	587,500
院生会員会費(過年度)	91,000	63,000	28,000
留学生会員会費(過年度)	5,500	16,500	△11,000
団体会員会費	11,000	11,000	0
② 事業収益	( 2,784,000)	( 300,000)	( 2,484,000)
大会参加費収入	2,375,000	0	2,375,000
大会広告収入	320,000	300,000	20,000
大会受取補助金	89,000	0	89,000
③ 受取寄付金	( 0)	( 36,140,831)	( △36,140,831)
受取寄付金	0	19,513,278	△19,513,278
受取寄付金_特別会計	0	16,627,553	△16,627,553
④ 雑収益	( 163,765)	( 162,749)	( 1,016)
受取利息	27,109	614	26,495
雑収入	136,656	162,135	△25,479
経常収益計	18,022,265	50,359,580	△32,337,315
(2) 経常費用			
① 事業費			
事業経費	( 9,805,649)	( 5,179,063)	( 4,626,586)
大会経費	3,152,619	13,380	3,139,239
紀要刊行費	5,463,137	4,241,806	1,221,331
プリテン刊行費	239,800	271,700	△31,900
オンラインジャーナル化費	138,710	234,630	△95,920
編集委員会経費	134,112	122,936	11,176
研究委員会経費	202,988	68,071	134,917
学会賞選考委員会経費	63,146	1,110	62,036
国際委員会経費	231,137	225,430	5,707
トラベルグラント	180,000	0	180,000
事業費計	9,805,649	5,179,063	4,626,586
② 管理費			
法人化経費	0	329,400	△329,400
会計士顧問料	330,000	198,000	132,000
代議員選挙費	490,050	0	490,050
理事会・事務局経費	5,830,245	5,082,054	748,191

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
交通費	167,558	86,820	80,738
会議会合費	55,621	9,964	45,657
事務アルバイト費	0	19,250	△19,250
事務委託費	4,284,995	3,695,207	589,788
印刷費	36,478	63,391	△26,913
通信費	769,018	650,403	118,615
消耗品費	34,566	223,779	△189,213
資料保管料	66,633	22,211	44,422
事務局事業費	55,000	0	55,000
会費支出	15,000	20,000	△5,000
雑費	329,776	289,529	40,247
租税公課	15,600	1,500	14,100
管理費計	6,650,295	5,609,454	1,040,841
経常費用計	16,455,944	10,788,517	5,667,427
評価損益等調整前当期経常増減額	1,566,321	39,571,063	△38,004,742
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,566,321	39,571,063	△38,004,742
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	1,566,321	39,571,063	△38,004,742
税引前当期一般正味財産増減額	1,566,321	39,571,063	△38,004,742
法人税、住民税及び事業税	86,300	96,000	△9,700
当期一般正味財産増減額	1,480,021	39,475,063	△37,995,042
一般正味財産期首残高	39,475,063	0	39,475,063
一般正味財産期末残高	40,955,084	39,475,063	1,480,021
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	40,955,084	39,475,063	1,480,021

**日本教育社会学会 予算書**  
(2025年8月1日～2026年7月31日)

(単位:円)

科目	2025予算額	2024予算額	2024決算額	2024收支 (予算対比)	備考
<b>(1)経常収益</b>					
①受取会費					
一般会員会費(当年度)	12,352,340	12,262,250	12,331,000	-68,750	納入率91%で計算
院生会員会費(当年度)	1,070,160	1,114,750	1,246,000	-131,250	納入率91%で計算
留学生会員会費(当年度)	195,195	205,205	170,500	34,705	納入率91%で計算
一般会員会費(過年度)	1,223,640	1,212,750	1,219,500	-6,750	
院生会員会費(過年度)	100,800	110,250	91,000	19,250	
留学生会員会費(過年度)	16,830	20,295	5,500	14,795	
団体会員会費	11,000	11,000	11,000	0	
②事業収益					
大会参加費	2,200,000	2,200,000	2,375,000	-175,000	前年度同額
大会広告収入	320,000	350,000	320,000	30,000	過去3年間の平均を参考に設定
大会受取補助金	0	0	89,000	-89,000	
③雑収益					
受取利息	10,000	1,000	27,109	-26,109	実態に応じて増額
雑収入	300,000	300,000	136,656	163,344	前年度同額
経常収益計	17,799,965	17,787,500	18,022,265	-234,765	
<b>(2)経常費用</b>					
①事業費					
大会経費	3,800,000	3,800,000	3,152,619	647,381	前年度同額
紀要刊行費	5,600,000	5,600,000	5,463,137	136,863	前年度同額
プリテン刊行費	200,000	200,000	239,800	-39,800	前年度同額
オンラインジャーナル化費	400,000	400,000	138,710	261,290	前年度同額
編集委員会経費	250,000	250,000	134,112	115,888	前年度同額
研究委員会経費	400,000	400,000	202,988	197,012	前年度同額
学会賞選考委員会経費	200,000	200,000	63,146	136,854	前年度同額
国際委員会経費	300,000	250,000	231,137	18,863	要望に応じて増額
トラベルグラン特	150,000	180,000	180,000	0	特別会計からの支出
地区活動活性化経費	1,600,000				2年間で20万円×8地区、特別会計
予備費	50,000	50,000	0	50,000	前年度同額
事業費計	12,950,000	11,330,000	9,805,649	1,524,351	
②管理費					
会計士顧問料	380,000	380,000	330,000	50,000	前年度同額
代議員選挙費	250,000	400,000	490,050	-90,050	
理事会・事務局経費計	6,360,000	6,450,000	5,830,245	619,755	
交通費	400,000	500,000	167,558	332,442	実態に応じて減額
会議会合費	50,000	50,000	55,621	-5,621	前年度同額
事務アルバイト費	70,000	90,000	0	90,000	実態に応じて減額
事務委託費	4,100,000	4,100,000	4,284,995	-184,995	前年度同額
印刷費	100,000	100,000	36,478	63,522	前年度同額
通信費	800,000	800,000	769,018	30,982	前年度同額
消耗品費	100,000	100,000	34,566	65,434	前年度同額
資料保管料	70,000	70,000	66,633	3,367	前年度同額
事務局事業費	250,000	300,000	55,000	245,000	実態に応じて減額、WG経費含む
会費支出	20,000	20,000	15,000	5,000	前年度同額
雑費	300,000	250,000	329,776	-79,776	実態に応じて増額
租税公課	100,000	70,000	15,600	54,400	実態に応じて増額
管理費計	6,990,000	7,230,000	6,650,295	579,705	
経常費用計	19,940,000	18,560,000	16,455,944	2,104,056	
経常収支計 (特別会計を除く収支)	-2,140,035	-772,500	1,566,321	-390,035	

## 会計部からのお知らせ

### 会費の納入について

会員の皆様には過日、2025年度（2025年8月1日～2026年7月31日）の会費の請求書をお届けしております。納入手続きがまだの方は、お早めにお手続きをお願いいたします。お送りした振込用紙には、一般会員（11,000円）、院生会員（7,000円）、留学生会員（5,500円）の区分に応じた会費の金額が印刷されています。もし振込用紙がお手元にない場合は、下記の郵便振込口座にお振り込みください。

また、学会ウェブサイトの「年会費オンライン決済」（英語サイトでは「Annual Membership Fees: Online Payment System」）のボタンから、クレジットカードによる支払い手続きを行うこともできます（必要な方は、領収書や請求書等の発行も可能です）。ご都合のよい方法にてご納入ください。

なお、会費の納入状況は、学会ウェブサイトの「会員情報管理システム」にログインした後、「会費納付状況」から、過年度分も含めてご確認いただけます。

#### <会費振込先>

郵便振込口座 00160-3-515784

口座名義人（加入者名）一般社団法人日本教育社会学会  
(他金融機関からの振込の場合は、ゆうちょ銀行〇一九店  
(ゼロイチキユウ店) 当座0515784)

(会計部長：朴澤泰男)

## 広報部からのお知らせ

### メールアドレス登録のお願いについて

重要なお知らせをいち早くお届けするために、会員一斉メールを運用しています。お知らせを見逃すことがないよう、会員情報システムにメールアドレスを御登録ください。学会ウェブサイトの「会員向けサービスを利用したい」のバナーにある「会員情報管理システム」のリンク先から登録可能です。御不明な点がありましたら事務局までお問い合わせください。御協力をよろしくお願ひいたします。

(広報部長：若槻 健)

## 会員管理部からのお知らせ

### 1. 会員情報の確認・更新について

会員情報は「会員情報管理システム< SOLTI >」により一括管理されておりますが、個人情報に類するものであるため、変更はご本人の申告によることを原則としております。年度の変わり目等には、ご自身の情報をご確認いただき、就職、異動等、変更のある場合は学会ウェブサイトからSOLTIにアクセスして会員情報の更新をお願いいたします。

します。特に、会員区分（一般、院生、留学生）については、更新が遅れますと、誤った請求による会費の不正納入等が生じることがございますので、ご注意ください。

### 2. 会費納入時期と学会機関誌投稿資格・年次研究大会発表資格との関係について

法人化後の本学会運営内規に基づき、会費納入時期と学会機関誌投稿資格要件および年次研究大会発表資格要件が変更されました。既存会員の場合、学会機関誌投稿については、各投稿締切日までの会費納入、年次研究大会発表については、発表申込締切日までの会費納入がそれぞれ必要となります。ただし、会費を「銀行振込」にてお支払いされる場合は、入金の反映までに時間がかかるため、各締切日の1週間前が納入期限となりますことにご注意ください。

また、新規入会の場合は、学会ウェブサイトの「別表新規入会申込時期と学会機関誌投稿資格および年次研究大会発表資格の関係」をご確認ください。

### 3. 学会入会年度の取り扱いについて

法人化に伴い、学会運営の時期区分が、年次研究大会の開催日を基準とした「学会年度」から「8月1日～翌年の7月31日」を区切りとする「事業年度」へと変わりました。これに伴い、2025事業年度入会を希望する場合は、2025年8月1日以降2026年7月31日までに入会手続を行い、会費を納入することが必要となります（2026年8月1日以降の手続の場合は、2026事業年度入会として扱うこととなります）。新入会員のご推薦をいただく際には、入会を希望される方へこのことをご周知いただけますようお願いいたします。

### 4. 自然災害等による被災者減免措置について

日本教育社会学会では、自然災害等による被災者減免措置を行なっております。学会事務局までご相談ください。

(会員管理部長：西本裕輝)

## 研究委員会からのお知らせ

### テーマ部会のテーマの募集について

第78回大会（法政大学）テーマ部会のテーマを募集します。以下の事項を記載した「テーマ部会提案書」をWordで作成し、下記までメール添付でお送りください。

- ①氏名、所属先、連絡先のメールアドレス、電話番号
  - ②テーマ
  - ③テーマ設定の趣旨（600～800字程度、もし同じ部会で報告を予定している会員がいれば、氏名と所属先も記載してください。）
  - ④テーマを示すキーワード（3個程度）
- <送付先>濱中義隆（研究委員長：国立教育政策研究所）  
E-mail : yhamam@nier.go.jp  
メールの件名は「テーマ部会提案書」としてください。

<締切>2026年2月19日（木）23:59

ご提案をもとに研究委員会でテーマを仮決定し、学会ウェブサイトと5月発行のブリテンで公表します。そのうえで一般部会・ポスター発表部会と同期間に発表申し込みを受け付け、部会が成立するだけの申し込みがあった場合に「テーマ部会」として確定します。部会が成立しなかった場合に備え、申し込みの際に第一希望または第二希望のいずれかは一般部会・ポスター発表部会を選択していただきます。

みなさまからのご応募をお待ちしています。お問い合わせは、上記までメールでお願いします。

（研究委員長：濱中義隆）

## 国際委員会からのお知らせ

2025年7月31日、日本教育社会学会国際委員会主催によるオンライン国際会議を開催しました。申込38件のうち36件の発表が行われ、日本、台湾、フィリピンなどから延べ172名が参加しました。会議は3部会構成で一日を通して活発な議論が行われ、国際的な研究交流の場として大きな成果を収めました。初めて英語で発表に挑戦する会員も少なくなく、本学会の会合に初めて参加する非会員も数多くおり、国際的な研究交流の裾野を広げ、研究発信の新たな契機となりました。今後も継続開催を求める声が多く寄せられており、持続可能な運営体制の検討を次期国際委員会に引き継いでおります。

（前国際委員長：相澤真一）

## 学会賞選考委員会からのお知らせ

### 第11回<著書の部>（2024年事業年度）選考結果

日本教育社会学会第11回奨励賞（著書の部）（2024事業年度）の選考が終了し、大阪大学で開催されました日本教育社会学会第77回大会（2025年11月8日）において授賞式が執り行われました。会員諸氏にご報告申し上げます。

受賞作は、以下の著書3点です（五十音順）。

2024事業年度 第11回奨励賞 著書の部

数実浩佑氏『学力格差の拡大メカニズム—格差は正に向いた教育実践のために』勁草書房、2023年、240頁

高田俊輔氏『教育による包摶／排除に抗する児童福祉の理念—児童自立支援施設の就学義務化から』春風社、2024年、315頁

豊永耕平氏『学歴獲得の不平等—親子の進路選択と社会階層』勁草書房、2023年、436頁

（前学会賞選考委員長：伊藤彰浩）

### 第12回<論文の部>（2025事業年度）募集について

本事業年度の学会奨励賞は、2024年1月1日から2025年12月31日までに発刊された論文が対象となります。自薦・

他薦の内容については、以下の通りです。学会ウェブサイトにも情報を掲載しておりますので、ご覧ください。

#### ■日本教育社会学会奨励賞要綱

- （名称）賞の名称を、「日本教育社会学会奨励賞」とする。
- （対象）賞の対象を、本会の若手の会員が発表した教育社会学の顕著な研究業績とする。「若手の会員」とは、選考の対象となる研究業績が発表された時点で、40歳未満あるいは大学院生であった者をいう。
- （部門）賞は、「論文の部」と「著書の部」からなるものとする。
- （選考）（1）賞の選考は、日本教育社会学会選考委員会（以下、選考委員会）が行い、選考結果を会長に報告する。  
（2）賞の選考は、2年間を単位として、この間に発表され、かつ、会員から自薦・他薦のあった研究業績を対象に行う。  
（3）会員が自薦および他薦できる研究業績は、各部門ごとに、自薦・他薦合わせて、会員一人あたり1点とする。  
（4）「論文の部」において自薦・他薦できる研究業績は、若手の会員が、『教育社会学研究』および日本国内外の学協会誌もしくはこれに準ずるものに個人名で発表し、掲載された和文あるいは英文の教育社会学研究論文とする。  
（5）「著書の部」において自薦・他薦できる研究業績は、若手の会員が、日本国内外において個人名で刊行した和文あるいは英文の教育社会学研究著書とする。  
（6）自薦・他薦の方法および選考の方法については、選考委員会が別に定める。

#### 5.（授賞点数）

- （1）「論文の部」における授賞点数は、2年間で、2ないし3点程度とする。  
（2）「著書の部」における授賞点数は、2年間で、原則として2ないし3点程度とする。  
（3）賞の授与は、会員一人につき、「論文の部」「著書の部」のそれぞれについて1回を限度とする。
- （4）（賞の授与）（1）賞の授与は、隔年の年次大会総会において行う。  
（2）授賞は、表彰のみとする。
- （5）（選考委員会への委任）この規定に定めるもののほか、必要な事項は、選考委員会が決定する。

#### 8.（規定の改正）

本規定の改正については、理事会の議を経て、総会の承認を得るものとする。

#### 附記

平成15年9月22日施行

#### ■日本教育社会学会奨励賞（論文の部）推薦（自薦・他薦）について

日本教育社会学会奨励賞（2025事業年度）の候補業績の推薦（自薦・他薦）を、次の要領で受け付けます。「日本教育社会学会奨励賞要綱」、「推薦（自薦・他薦）票」の注意事項をお読みのうえ、推薦いただきますようお願いいたします。

2025事業年度は「論文の部」の推薦となります。

### I 推薦（自薦・他薦）の必要書類等

- ① 推荐する業績 論文の部 掲載誌1冊および抜き刷り（コピー可）3部（2025事業年度募集）。ただし『教育社会学研究』掲載論文については掲載誌・抜き刷りは不要です。
- ② 推荐（自薦・他薦）票 1部（2頁） 推荐票は、漏れなくご記入ください。推薦表の様式は、日本教育社会学会ウェブサイトよりダウンロードすることができます。応募書類は返却いたしませんのでご了承ください。

※【個人情報保護につきまして】推薦票に記載された情報に関しては、学会賞選考以外の目的で利用することはできません。

### II 書類の送付先、締め切り

推薦（自薦・他薦）の必要書類は、下記あて、郵送（宅配便も可）してください（電子メールの添付書類では受け付けません）。

〒113-0033

東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院教育学研究科 多喜弘文研究室 気付  
日本教育社会学会 学会賞選考委員会事務局

締め切り 2026年3月2日（月）（必着）

受理次第、電子メールにてその旨を連絡します。

### III 推荐要件などについて

候補業績の推薦は、「日本教育社会学会奨励賞要綱」を熟読のうえお願いします。その要点は次のとおりです。「要綱」は学会ウェブサイトにも掲載しています。

- ①（対象）賞の対象は、本会の若手の会員が発表した教育社会学の顕著な研究業績です。「若手の会員」とは、選考の対象となる研究業績が発表された時点で、40歳未満あるいは大学院生であり、かつ会員であった者を指します。
- ②（部門）賞は、「論文の部」と「著書の部」からなります。
- ③（選考）賞の選考は、2年間を単位として、この間に発表され、かつ、会員から自薦・他薦のあった研究業績を対象に行います。今回の選考は、2024年1月1日から2025年12月31日までに発行された論文を対象とします。

会員が自薦および他薦できる研究業績は、部門ごとに、自薦・他薦合わせて、会員一人あたり1点です。

「論文の部」において自薦・他薦できる研究業績は、若手の会員が、『教育社会学研究』および日本国内外の学協会誌もしくはこれに準ずるものに個人名で発表し、掲載された和文あるいは英文の教育社会学研究論文です。単著論文に限定されます。

ただし『教育社会学研究』誌に掲載された投稿論文は、掲載時に有資格者からすでに自薦票が提出されておりますので、あらためて推薦票（自薦・他薦）をご提出いただく必要はありません。

学会賞選考委員は、「推薦会員」となることはできません。

#### ④（授賞点数）

「論文の部」における授賞点数は、2年間で、2ないし3点

程度です。賞の授与は、会員一人につき、「論文の部」「著書の部」のそれぞれについて1回を限度とします。

#### ⑤（賞の授与）

賞の授与は、隔年の年次大会総会において行います。

### IV 問い合わせ先（電子メールにてお願いします）

副委員長 多喜弘文（東京大学大学院教育学研究科）

電子メール taki-h@p.u-tokyo.ac.jp

\*自薦・他薦の応募用紙については、学会ウェブサイトからダウンロードしてご使用ください。

（学会賞選考委員長：平沢和司）

## 倫理委員会からのお知らせ

前期倫理委員会では、「倫理に関する会員調査」の結果要約と集計結果をまとめ、学会ホームページにて公開しております。これまでも研究倫理に関する相談窓口を常時設けてまいりましたが、公式の相談件数が過去4年間、全くなかったこととは裏腹に、会員調査での皆様からのご回答からは、かなり深刻な状況があることがわかりました。ぜひ会員調査結果をご覧下さい。

この問題への対応策のひとつとして前期委員会が提案してきました単独の新規定案「不正な研究および差別・ハラスメント等の認定・処分を受けた会員に対する要請」の骨子文面が2025年9月27日に開催された理事会において承認されました。その主旨は2次被害を防止することにあります。運用内規等の整備を今期に引き継ぎ、さらに具体的に検討することが理事会で確認されました。

（前倫理委員会副委員長：片岡栄美）

## 大型プロジェクト特別委員会からのお知らせ

### 1. プロジェクトA「全国学力・学習状況調査個票データの二次分析」採択結果について

大型プロジェクト特別委員会では、「全国学力・学習状況調査個票データの二次分析」プロジェクトを立ち上げ、すでにメールやブリテンなどでもお知らせしました通り、本学会会員に向けて参加者の募集を行いました。文部科学省に申請した分析計画のうち、さしあたり承認され研究を進めることに決定したのは、3つの拠点（福岡教育大学・大阪大学・東京大学）の12の分析計画です。詳細につきましては、あらためてご報告いたしますが、現時点でプロジェクト参加が確定しているのは以下の方々です。有意義な共同研究となりますよう、委員会としてもサポートをしていきたいと考えております。

#### 【プロジェクトA参加会員（2025年11月現在）】

垂見裕子（武藏大学）・松岡亮二（龍谷大学）・大久保心（立教大学）・賀數さゆり（お茶の水女子大学大学院）・中村高康（東京大学）・多喜弘文（東京大学）・山口哲司（東京大

学大学院)・謝伊林(東京大学大学院)・上原真路(東京大学大学院)・副島拓真(東京大学大学院)・森いづみ(中央大学)・渡辺達雄(金沢大学)・眞田英毅(武庫川女子大学)・知念涉(大阪大学)・田中祐児(日本学術振興会特別研究員)・宇田智佳(日本学術振興会特別研究員)・谷本成星(大阪大学大学院)・西村尋(大阪大学大学院)・桑山碧実(大阪大学大学院)・秋山みき(大阪大学大学院)・表谷脩平(大阪大学大学院)・水野聖良(大阪大学大学院)・尾河勇太(大阪大学大学院)・土屋友衣子(大阪大学大学院)・井芹俊太郎(神田外語大学)・中尾走(愛媛大学)・川口俊明(福岡教育大学)

## 2. プロジェクトB「人口減少社会における教育課題」について

9月17日(水)に公開研究会を星が丘キャンパスにて実施し、37名が参加され、懇親会も行われました。また、11月の学会大会においては2つのテーマ部会「少子化をめぐる教育政策と実践」「人口減少社会の新局面」を立ち上げて研究報告をいたしました。引き続き研究を進める予定です。

(大型プロジェクト特別委員会前委員長：中村高康)

---

## 選挙管理委員会からのお知らせ

2025・2026事業年度の代議員選挙が、5月26日から6月8日にかけて実施されました。法人化後初の選挙となった今回は、代議員定数が1名減の48名となりました。これは、選挙に先立ち有権会員数を調べた結果、法人化前の前回選挙から大幅な減少が確認されたためです。また、有権会員数の減少の大きな理由は、会費未納者の存在です。会費未納は選挙権の喪失につながることを、改めて会員に周知する必要がありそうです。

選挙期間中2度の督促を経て、最終投票者数は290名、会員の24.1%となりました。これは、法人化以前と比較すると上昇している(16.8%→20.6%→18.5%→21.7%→23.0%→24.1%)とはいうものの、依然として低い投票率です。また地区別にみると、東北区(20.4%)・関東区(19.0%)・東京区(23.9%)・中部区(20.9%)・近畿区(19.8%)の各区が、全国平均を下回る結果となりました。

個々の研究活動は学会の活発な活動を通じて深化・高度化するものです。次回の選挙に向けては、学会運営へのより積極的な関与を促す広報活動を検討するとともに、会員一人ひとりが主体的に学会を支える意識の醸成が期待されます。

代議員選挙結果を踏まえ、7月9日から16日の期間で、引き続き役員選挙が実施され、新会長と、監事候補者2名が決定しました。選出された代議員および役員は、すでに学会HPで公開済みです。

(選挙管理委員長：油布佐和子)

---

## 教育関連学会連絡協議会担当理事からのお知らせ

### 公開シンポジウムのお知らせ

教育関連学会連絡協議会では、日本学術会議心理学・教育学委員会「不登校現象と学校づくり分科会」との共催で、2026年3月7日(土)午後に公開シンポジウムを開催する予定です(時間未定)。詳細は会員メールにてお知らせします。

(前教育関連学会連絡協議会担当理事：酒井 朗)

---

## 社会調査協会担当理事からのお知らせ

一般社団法人社会調査協会の2025年上半期の活動および動向について報告します。

(1) 2024年度の社会調査士・専門社会調査士の資格認定の結果が発表されました。社会調査士が2,665人、社会調査士キャンディエイトが2,164人、専門社会調査士(正規)が53人、専門社会調査士(8条規定)が60人、専門社会調査士(キャンディエイト)が1人と前年度とほぼ同様の実績でした。

(2) 2025年5月に社会調査協会定時社員総会と理事会が開催され、2024年度事業報告、決算報告および2025年度事業計画及び予算案が承認され、各委員会からの活動状況報告がありました。

(3) 機関誌『社会と調査』No.35が2025年9月に発行されました。今号の特集は「家族と教育の格差と多様性をとらえる社会調査」です。同誌は出版元の京都通信社やamazonで購入できるほか、バックナンバーは社会調査協会のホームページから一部の記事を除いて全文がダウンロードできます。

(社会調査協会担当理事：吉川 徹)

---

## 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(GEAHSS) 担当理事からのお知らせ

前記から引き続き、GEAHSS担当理事を拝命しました本田由紀です。

GEAHSSは2024年10月から2025年9月末までが第8期、それに続く1年間が第9期となります。

2025年9月13日に開催された運営委員会では、第8期の活動報告と第9期に向けての展望が議論されました。

第8期には、公開シンポジウムの開催、第3回「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」に向けての準備などが主な活動として実施されました。

詳細はGEAHSSのホームページ(<https://geahssoffice.wixsite.com/geahss>)に資料が掲載されておりますため、ご関心をもっていただける方はご覧ください。

以下には、紙幅をいただき恐縮ですが、GEAHSSの状

況を包括的に知っていただくため、上記運営委員会の議事録から、本学会にとっても有用と思われる議論の抜粋を掲載いたします（資料は省略）。

#### GEAHSS 第8期第2回（通算第16回）運営委員会議事録

日時：2025年9月13日（土）13:00～15:00 Zoomによるオンライン開催

出席（43学協会） 委任状（17学協会）

##### 〈報告事項〉

1. 前回運営委員会議事録（2025年3月24日、通算第15回）確認

2. 2024年10月1日～2025年9月30日までの活動報告

(1) 加盟状況（資料2）

(2) 活動報告（資料3）

松永委員長より、2025年3月に開催された公開シンポジウム後のアンケート結果が報告された。「大変参考になった」「参考になった」が100%で、好評であったことが報告された。自由記述における、「このような研修が全国の大学、学協会単位でも行われることを望む」、「法的規定について知ることができ参考になった」、「ハラスメントの判断の難しさを知ったうえでハラスメント対策の改善を続ける必要がある」等の意見が紹介された。

(3) 調査委員会の活動報告（資料4）

調査委員会の坂無淳委員長から資料に基づいて報告された。第3回調査を実施予定であること、調査委員会メンバー間で会議を重ね、調査項目について検討し、調査を準備中であることが報告された。調査アドバイザーとして、宇井美代子氏（玉川大学）、濱中淳子氏（早稲田大学）、村澤昌崇氏（広島大学）に依頼し承諾を得られたこと、2026年度の科研費の申請を9月に提出し、2026年度～2028年度の3年間の研究を計画しているということが報告された。

確認事項として、データセットに関するガイドラインの改訂について次回の運営委員会に提案予定であることが示された。また、第3回調査では、第2回同様GEAHSS役員会、内閣府、加盟学協会からの要望を聞いて、調査項目を検討することについて、意見が求められ、それに対して松永委員長から、まずは役員会で検討するという方針が示された。また、加盟学協会内でも議論してもらい意見を募るが、要望が多かった場合は調査委員会で取捨選択するという方針が全体で確認された。

#### 3. 学協会からのグッドプラクティスの事例報告

日本社会心理学会の山下氏からは若手研究者支援として海外学会発表の渡航費、アブストラクトの翻訳費を上限10万円（アジア）～15万円（アジア以外）支給しているという取り組み、若手研究奨励賞を設けて賞金を授与している取り組みが紹介された。その際、「若手」は大学院生、「アーリー・キャリア」は博士課程を出てから5年以内と定めて、5名ずつの枠を確保しているとのことだった。

日本スポーツとジェンダー学会の井谷氏から、学会におけるUDトークの活用、オールジェンダートイレの設置について報告された。オールジェンダートイレは、学会の女性参加者が多かったので、男性トイレをオールジェンダー

トイレとして活用した経緯が説明された。UDトークの活用は、申し出があったからというのではなく、ないから聴覚障害のある方が参加しないと見て導入したとのことで、聴覚に問題なくとも、非常に有効だと認識した、という結果報告がされた。

##### 〈審議事項〉

1. 第8期の決算報告（資料5）

2. 第9期の予算と活動報告について

(1) 予算について（資料6）

(2) 次回シンポジウムのテーマについて

3. 第9期の委員長・副委員長の選出

松永委員長より、第9期委員長を堅田香緒里氏（日本社会福祉学会）とし、副委員長を西村賀子氏（日本西洋古典学会）とすることが提案された。過半数の賛成により承認された。

4. 第9期の幹事学会・副幹事学会の選出松永委員長より、第9期幹事学会を第9期委員長が所属する日本社会福祉学会とし、副幹事学会を第9期副委員長が所属する日本西洋古典学会とすることが提案された。過半数の賛成により、承認された。

5. 第9期の会計監事の選出

6. その他

(1) 第11期幹事学会の募集について

(2) グッドプラクティスの情報交換について

松永委員長より、先に報告があったグッドプラクティスのほかにも、各学協会の取り組みについて情報交換することが呼びかけられた。松永委員長より、日本認知・行動療法学会では、若手、アーリー・キャリア支援として、学会発表の支援金、研究機関に所属しない実践家の研究支援金の制度があることが共有された。また、理事の選挙において、ジェンダーバランスを意識する呼びかけをしつつ理事のジェンダー比率を決めて選挙をおこなっているという実践が共有された。

宇井幹事より、日本心理学会では、男女共同参画推進委員会の活動として、ネットワーキングイベントを行い、女性、若手、ワークライフバランスについて情報共有している実践が紹介された。

続けて、松永委員長から、日本認知・行動療法学会では、大会で研究発表への指導や意見をする際のハラスメント的発言、懇親会でのハラスメントへの対応として、そういう言動がみられた場合は参加を控えてもらうという文言を大会ホームページに掲載しているという取り組みが紹介された。

(3) 若手、アーリー・キャリア支援について

吉原幹事から、日本哲学会では、若手の声が理事会に届くようにするよう、研究者支援や男女共同参画のワーキンググループのメンバーには若い人を積極的に入れ、座長は理事が担当し、若手の声を理事会に確実に届けるようにしていることが紹介された。また、学会内の若手を中心とする組織にとって、課題解決を考える際にはほかの学会の若手どうしの横のつながりがあるとよいことから、GEAHSSで連携をとるシステムがあるとよい、という意見が出された。

日本教育学会の平井氏から、日本教育学会では、若手育成委員会が若手会員を対象にキャリア支援をしていることが紹介された。特徴としては、それまでの若手支援は学術論文の執筆、大学の職について等に偏っていたため、今年はアカデミズム以外の人に話題提供をしてもらい、研究機関だけではなく、多様なキャリアパスについての支援を行い、好評であったことが報告された。

学協会内の若手支援委員会について、宇井幹事から、日本心理学会では、男女共同参画推進委員会や若手の委員会があるが、それらは理事選挙に依らず、自薦・他薦・立候補で人が集まってきて、関心のある問題に取り組んでいるという説明がなされた。担当理事と連携しながらやっていくが、理事であるかどうかの影響を受けないということでも、ギースへの参加も継続的にできるようになっている、という仕組みが紹介された。

#### (4) 多様性の観点について

日本倫理学会の佐藤氏から、日本倫理学会では昨年度学会大会でフェミニスト倫理学というセッションが初めて行われたことが報告された。また、女性研究者支援というよりは、ダイバーシティの観点から、ジェンダー・アイデンティティの自己開示をしなくてもいい体制を作りつつあり、ギースにおいても、マイノリティの人たちのしんどさをどうするかというところの取り組みについて議論したい、という意見が出された。

#### (5) 学会におけるハラスメント対応について

日本教育社会学会の本田氏より、現在日本教育社会学会では差別・ハラスメント等によって倫理規定に抵触する問題を起こした人には学会活動の自粛を要請するという規定を検討していることが報告され、各学協会で同様の取り組みがあれば知りたい、という投げかけがあった。

それに対し、日本倫理学会の佐藤氏から、東北哲学会はホームページにガイドラインが細かく記されているという情報提供があった。

松永委員長は、これまでハラスメント規定があるかないかという質問にとどまっていたが、そういった事案が出たときにどういう対応をしているかということ、規定との関係などについても、アンケート等で聞き取ることを考えたいという意向が示された。

以上

(人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会担当理事：本田由紀)

## 2025-2026学会年度 代議員・理事・事務局・委員等の構成

### 1. 代議員（地区別・五十音順）

【北海道】玉井康之／平沢和司

【東北】島一則／天童睦子／福島裕敏

【関東甲信越】岩永雅也／越智康詞／小野奈生子／小林雅之／白川優治／高橋靖幸／徳永智子／間山広朗

【東京】稻葉浩一／菊地栄治／酒井朗／鶴田真紀／額賀美紗子／濱中淳子／濱中義隆／本田由紀／牧野智和／森一平

／山田哲也／吉田文

【中部】紅林伸幸／長谷川哲也／原田琢也／三浦綾希子／渡邊雅子

【近畿】荒牧草平／伊佐夏実／吉川徹／園山大祐／高田一宏／多賀太／知念涉／西田芳正／堀家由妃代／若槻健

【中四国】尾川満宏／西本佳代／村澤昌崇／山田浩之

【九州】木村拓也／西本裕輝／長谷川祐介／深堀聰子

### 2. 理事・監事

【代表理事】酒井朗

【選挙理事】越智康詞／菊地栄治／紅林伸幸／多賀太／濱中淳子／平沢和司／本田由紀／間山広朗／山田哲也

【推薦理事】吉川徹／木村拓也／白川優治／鶴田真紀／西本裕輝／濱中義隆／日下田岳史／朴澤泰男／山田浩之／渡邊雅子／若槻健

【大会校理事】木村涼子・寺崎里水

【監事】岩永雅也／島一則

### 3. 事務局

【会長】

酒井朗

【事務局長】

多賀太

【事務局次長】

白川優治

【事務局員】

中野綾香／平井大輝／宮田りりい

【企画部】

部長：山田哲也

副部長：伊佐夏実

部員：敷田佳子／渡邊綾

【会計部】

部長：朴澤泰男

副部長：松村智史

【広報部】

部長：若槻健

副部長：三浦綾希子／末次有加

【年次研究大会支援部】

部長：日下田岳史

副部長：篠田雅人

【会員管理部】

部長：西本裕輝

副部長：長谷川祐介

【教育部】

部長：間山広朗

副部長：久保田真功／森一平

部員：胡中孟徳／小原明恵／高嶋江／林明子／黒田協子／齋藤楓美／濱本真一

【ダイバーシティ推進部】

部長：鶴田真紀

副部長：保坂克洋

### 4. 委員会等

**【編集委員会】**

委員長：菊地栄治  
 副委員長：荒牧草平／加藤美帆

委員：石田賢示／石野未架／井上慧真／今田絵里香／上山浩次郎／大澤真平／太田知彩／岡本智周／数実浩佑／加藤隆雄／白川俊之／高橋史子／都島梨紗／都村聞人／藤間公太／豊永耕平／中村瑛仁／西島央／濱貴子／濱本真一／濱元伸彦／樋口くみ子／布川あゆみ／藤田武志／藤根雅之／松岡亮二／元森絵里子／森いづみ／保田直美／山田礼子／山ノ内裕子／李敏

**【研究委員会】**

委員長：濱中義隆  
 副委員長：牧野智和／香川めい

委員：岩脇千裕／小川和孝／下瀬川陽／高橋靖幸／立石慎治／寺町晋哉／苦米地なつ帆／西本佳代／丸山和昭

**【国際委員会】**

委員長：木村拓也  
 副委員長：徳永智子

委員：伊藤未帆／岩渕和祥／坂口真康／陣田内美／陣内未来／中世古貴彦／潘秋静／前田麦穂／三好登／宮崎優希／森利枝／劉靖

**【学会賞選考委員会】**

委員長：平沢和司  
 副委員長：多喜弘文

委員：五十嵐素子／井上義和／卯月由佳／金子真理子／渋谷真樹／白松賢／中西祐子／村澤昌崇

**【倫理委員会】**

委員長：越智康詞  
 副委員長：越川葉子／紅林伸幸

委員：木村祐子／松宮慎二

**【大型プロジェクト特別委員会】**

委員長：濱中淳子  
 副委員長：川口俊明／尾川満宏

委員：梅田崇広／片山悠樹／金南咲季／田垣内義浩／知念涉／中村高康

**【地区活動担当理事】**

山田浩之

**【教育関連学会連絡協議会担当理事】**

渡邊雅子

**【社会調査協会担当理事】**

吉川徹

**【人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会担当理事】**

本田由紀

以上、2025年11月7日承認分まで

(事務局長：多賀 太)

**代議員総会の記録**

2024事業年度第1回臨時代議員総会（2024年12月22日：Web会議システム利用開催）

代議員総数48名中47名出席（うち9名書面出席）

**I. 議長選出・議事録署名人の指名**

臨時代議員総会に先立ち、議長として高橋靖幸代議員、議事録署名人として加野芳正監事および朴澤泰男監事が指名された。

**II. 代議員総会の成立確認**

議長により定足数を満たすことが確認され、臨時代議員総会の成立が宣言された。

**III. 会長挨拶**

酒井会長（代表理事）より、臨時代議員総会開催にあたっての挨拶があった。

**IV. 大会校理事挨拶**

新大会校理事の木村涼子氏より、次年度学会大会開催に関する挨拶があった。

**V. 前回議事録の確認**

各々の代議員によって前回議事録の確認が行われた。

**VI. 議題****[報告事項]****1. 事務局長報告**

山田事務局長より、事務局からの特段の報告事項はない旨が共有された。

**2. 業務執行理事の就任について（事務局）**

山田事務局長より、木村涼子氏の業務執行理事への就任が報告された。

**3. 大会校理事・業務執行理事の任期について（事務局）**

山田事務局長より、大会校理事は、業務執行理事を兼ねること、並びに業務執行理事の任期等が再度確認された。

**4. 2024事業年度理事会・代議員総会開催スケジュールについて（事務局）**

山田事務局長より、2024事業年度理事会・代議員総会開催スケジュールについて報告があった。

**5. 各部・各委員会報告****(1) 大会実行委員会**

越智理事より、第76回学会大会の実施報告があった。また、白川理事より、第76回大会実施における予算案、並びに決算の状況について報告がなされた。

**(2) 会計部**

小川理事より、ガリレオへの事務委託費、学会財政の状況について報告がなされた。

**(3) 広報部**

立石理事より、ブリテン、ウェブサイトについての報告がなされた。

**(4) 会員管理部**

越川副部長より、会員管理について、入会者数・退会者数、現時点での会員数の報告がなされた。

**(5) 教育部**

村澤理事より、2025年3月に開催予定の若手研究者に

向けた会について報告がなされた。

(6) 編集委員会

山田事務局長より、紀要への投稿に関するホームページ記載の更新について、代理で報告がなされた。

(7) 研究委員会

古田副委員長より、大会に参加しない連名発表者の大会参加費の扱いについて報告がなされた。

(8) 國際委員会

相澤理事より、國際委員会主催のオンライン国際会議を開催する旨について報告がなされた。

(9) 学会賞選考委員会

天童副委員長より、2024事業年度の学会賞の公募について報告がなされた。

(10) 大型プロジェクト特別委員会

中村理事より、プロジェクトの具体的進捗について報告がなされた。

(11) 地区活動検討特別委員会

大多和副委員長より、地区活動の実施について報告がなされた。

その他

1) 学会賞選考委員会委員長の指名と承認について  
山田事務局長より、学会賞選考委員会委員長の指名と承認について報告がなされた。本学会会則第10条第2項の記載に基づき、理事会において伊藤彰浩氏が学会賞選考委員会委員長に指名・承認された旨が示された。

[決議事項]

1. 推薦理事候補者の承認について

山田事務局長より、学会賞選考委員会委員長として指名・承認された伊藤彰浩氏について、本学会役員候補者選出規則第2条に基づき理事に推薦されたので、その選任につき議場に諮ったところ異議がないことを確認のうえ、承認された。

2. 選挙管理委員会の設置について

山田事務局長より、来年の代議員選挙の選挙管理委員会の設置に関して共有がなされた。本学会代議員選挙規則第3条2項の記載に基づき、資料に提示の会員を委員長・委員とする旨について、異議がないことを確認のうえ、承認された。

2024事業年度第2回臨時代議員総会（2025年7月26日：Web会議システム利用開催）

代議員総数48名中48名出席（うち7名書面出席）

I. 臨時代議員総会の成立確認

山田事務局長より、定足数を満たすことが確認された。

II. 議長選出・議事録署名人の指名

議長として平沢和司代議員、議事録署名人として白川優治代議員および小野奈生子代議員が指名された。

III. 議題

[決議事項]

1. 定款の一部改正について

山田事務局長より、定款の一部改正について説明がな

された。本事項について、異議がないことを確認のうえ、承認された。

2. その他

議長より、その他の決議事項については特段確認されない旨が示された。

IV. その他

選挙管理委員会の油布委員長より、2025-2026事業年度の選挙結果について報告がなされた。

2024事業年度第3回臨時代議員総会（2025年7月26日：Web会議システム利用開催）

代議員総数48名中42名出席（うち9名書面出席）

I. 臨時代議員総会の成立確認

山田事務局長より、本日の代議員総会への出席数が定款に定める定足数を満たしていることが確認された。

II. 議長選出・議事録署名人の指名

臨時代議員総会に先立ち、議長として元森絵里子代議員、議事録署名人として加野芳正監事および高橋靖幸代議員が指名された。

III. 会長挨拶

酒井会長より、理事会構成員に挨拶があった。

IV. 大会校理事挨拶

木村大会校理事が欠席のため割愛された。

V. 前々回、前回議事録の確認

各々の代議員によって前々回、前回の議事録の確認が行われた。

VI. 議題

[報告事項]

1. 事務局長報告

山田事務局長より、定款の変更について報告がなされた。

2. 2025年度事業計画について

山田事務局長より、2025年度事業計画について報告がなされた。

3. 2025・2026事業年度代議員・役員選挙結果報告（選挙管理委員会）

油布委員長より、2025・2026事業年度代議員・役員選挙結果について報告がなされた。なお、天童代議員の役職が名誉教授である旨の訂正がなされた。

4. 各部・各委員会報告

(1) 会計部報告

小川理事より、来年度予算について報告がなされた。

(2) 広報部報告

立石理事より、下記の点について報告がなされた。

1) 『教育社会学研究』第113集のJ-STAGEでの公開について

2) ウェブサイトについて

3) 会員一斉メールについて

(3) 年次研究大会支援部報告

白川理事より、大会開催時の出版社への広告打診状況について報告がなされた。

## (4) 会員管理部報告

- 小野理事より、下記の点について報告がなされた。
- 1) 会員数について
  - 2) その他（選挙管理委員会の補助業務・学会ウェブサイトの修正）について

## (5) 教育部報告

村澤理事より、11月大会時の若手の会について報告がなされた。

## (6) 編集委員会報告

倉石理事より、下記の点について報告がなされた。

- 1) 116集の刊行について
- 2) 117集の編集状況について
- 3) 118集の特集企画について

## (7) 研究委員会報告

平沢理事より、第9回研究委員会の議論から大会プログラム等について報告がなされた。

## (8) 國際委員会報告

相澤理事より、下記の点について報告がなされた。

- 1) 國際委員会委員長代理職の設置と任命について
- 2) 台湾教育社会学会からの招聘者の大会参加費用免除について
- 3) オンライン国際会議（7月31日）について
- 4) 2025年年次大会における英語特設部会について

## (9) 学会賞選考委員会報告

天童副委員長より、下記の点について報告がなされた。

- 1) 学会奨励賞の審査結果について
- 2) トラベルグラン트について

## (10) 大型プロジェクト特別委員会報告

中村理事より、プロジェクトの進捗状況について報告がなされた。

## (11) 倫理委員会報告

片岡副委員長より、下記の点について報告がなされた。

- 1) パブリックコメントの募集結果について
- 2) パブリックコメントの結果を踏まえた新規程「不正な研究および差別・ハラスメント等の認定・処分を受けた会員に対する要請」の制定案について白川理事・酒井会長・山田事務局長より規程の今後の運用について質問があり、片岡副委員長より今後検討していく旨の説明があった。
- 3) 倫理規程、倫理ガイドラインの改訂について

## 5. その他

## (1) &lt;教員養成政策に関する学会の対応について&gt;検討依頼

「教育社会学のプレゼンスと教員養成を考えるワーキンググループ」の油布会員から、下記の点について検討依頼があった。

- 1) 会員を対象としたアンケート調査の実施
- 2) 学会時、あるいは、学会公認のwebによる会員相互の意見交換の場の設定

- ・相澤理事より、アンケート調査の対象者についての確認がなされ、油布会員より今後検討する旨の返答がなされた。

(事務局長：多賀 太)

**理事会の記録**

2024事業年度第3回理事会（2025年3月22日：Web会議システム利用開催）

理事総数21名中17名出席

議長：酒井 朗

## I. 会長挨拶

酒井会長より、理事会構成員に挨拶があった。

## II. 定足数確認

議長の酒井会長より、本日の理事会への出席理事数が定款に定める定足数を満たしていることが確認された。

## III. 大会校理事挨拶

次期大会校の木村理事より、理事会構成員に挨拶があった。

## IV. 前回議事録の確認

山田事務局長より、前回の議事録に関する確認がなされた。

## V. 事務局長報告

山田事務局長より、トラベルグラントについてスケジュール等の報告があった。

## VI. 議題

## [決議事項]

## 1. ブリテンNo.182の構成案について（広報部）

立石理事より、ブリテンの構成案について提案があり、異議がないことを確認の上、承認された。

## 2. 大会実行委員会の構成について（年次研究大会支援部）

白川理事より、大会実行委員会の構成について提案があり、異議がないことを確認の上、承認された。

## 3. 前回理事会以降、2/28までの入会申込者の承認について（会員管理部）

小野理事より、入会申込者についての報告があり、異議がないことを確認の上、承認された。

## 4. その他

(1) 酒井会長より、代議員選挙に際して、前々回まで（法人化前の理事）を考慮した上で、多選規程を考えることとする提案があり、異議がないことを確認の上、承認された。

(2) 酒井会長より、日本学術会議法案に関する対応について、理事会として反対声明（廃案を求める）を出すこと、そしてその文言については事務局で作成する旨の提案がなされ、異議がないことを確認の上、承認された。

## [報告事項]

## 1. 会計部報告

小川理事より、下記の点について報告があった。

- 1) ガリレオからの12～2月分事務委託費請求について
- 2) 2024事業年度第1半期の収支状況について

## 2. 広報部報告

立石理事より、下記の点について報告があった。

- 1) 『教育社会学研究』第112集のJ-STAGEでの公開について

- 2) ウェブサイトについて  
3) 会員一斉メールについて
3. 年次研究大会支援部報告  
白川理事および大会校の木村理事より、第77回大会の準備状況について報告があった。
4. 会員管理部報告  
小野理事より、下記の点について報告があった。  
1) 前回理事会以降、2/28までの退会者の報告  
2) 現会員数の報告
5. 教育部報告  
木村副部長より、若手交流会の開催について報告があつた。
6. 研究委員会報告  
平沢理事より、下記の点について報告があつた。  
1) 第6回委員会の開催報告ならびにその後の動向について  
2) 2025年大会のスケジュールについて  
3) 大会発表申込関連のスケジュールについて  
4) 大会発表申込者への対応について  
5) 大会支援部との業務分担について  
6) 大会関連の外部委託業者の業務改善について  
7) 次回委員会について
7. 倫理委員会報告  
片岡副委員長より、下記の点について報告があつた。  
1) 倫理規定や研究倫理ガイドラインの見直しについて  
2) 問い合わせ等についての対策と対応について  
次回理事会にてパブリックコメントに向けた報告をすることが確認された。
8. 大型プロジェクト特別委員会報告  
特別委員会の中村理事より、プロジェクトの具体的進捗について報告があつた。
9. 地区活動検討特別委員会報告  
広田理事より、「地区活動の活性化方策の具体案について（最終報告）」について報告があつた。
10. 教育関連学会連絡協議会担当理事報告  
酒井会長より、教育関連学会連絡協議会総会について報告があつた。
11. 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会担当理事報告  
本田理事より、GEAHSSの活動について報告があつた。
12. その他  
(1) 選挙管理委員会報告  
油布委員長より、委員会名簿、選挙日程等について報告があつた。  
(2) 国際委員会報告  
相澤理事より、公開シンポジウムについて報告があつた。  
(3) 事務局報告  
山田事務局長より、EBSCOについての報告があつた。

理事総数21名中18名出席  
議長：酒井 朗

- I. 会長挨拶  
酒井会長より、理事会構成員に挨拶があつた。
- II. 定足数確認  
議長の酒井会長より、本日の理事会への出席理事数が定款に定める定足数を満たしていることが確認された。
- III. 大会校理事挨拶  
木村大会校理事より、理事会構成員に挨拶があつた。
- IV. 前回議事録の確認  
酒井会長より、前回の議事録に関する確認がなされた。
- V. 事務局長報告  
山田事務局長より、前回の理事会以降、各部・各委員会において本日の議題に関する準備を進めていただいたことについて謝意が示された。
- VI. 議題  
[決議事項]  
1. 決算見通し・来年度予算の編成方針について（会計部）  
小川理事より、決算見通し・来年度予算の編成方針についての報告があり、異議がないことを確認の上、承認された。  
2. 前回理事会以降、5月3日までの入会申込者の承認について（会員管理部）  
小野理事より、入会申込者についての報告があり、異議がないことを確認の上、承認された。  
3. 倫理委員会の窓口とアクセス方法についての会員周知の一斉メール（倫理委員会）  
片岡副委員長より、倫理委員会の窓口とアクセス方法について会員への一斉メールを配信するとの提案があり、審議事項とはせず報告事項として共有された。  
4. 新規程の制定案（倫理委員会）  
5. パブリックコメントの募集（倫理委員会）  
倫理委員会の片岡副委員長より、上記4新規程の制定を含めて会員にパブリックコメントを募集する旨の提案があり、異議がないことを確認の上、承認された。  
6. 倫理委員会構成について（倫理委員会）  
倫理委員会の片岡副委員長より、倫理委員会規程第3条第3項の修正の提案がなされ、委員の増員について異議がないことを確認の上、承認された。
7. その他  
その他の事項となる審議事項はないことが確認された。
- [報告事項]  
1. 会計部報告  
小川理事より、下記の点について報告がなされた。  
1) ガリレオからの3～4月分事務委託費請求について  
2) 7月理事会における一般会計から特別会計への繰り入れについて  
2. 会員管理部報告  
小野理事より、下記の点について報告がなされた。  
1) 前回理事会以降、5月3日までの退会者の報告  
2) 現会員数の報告

### 3. 倫理委員会報告

片岡副委員長より、下記の点について報告がなされた。

- 1) 倫理委員会の開催について
- 2) 会員調査の結果報告書について

### 4. 広報部報告

中村副部長より、下記の点について報告がなされた。

- 1) ブリテン No.182 の発行について
- 2) ウェブサイトについて
- 3) 会員一斉メールについて

### 5. 教育部報告

村澤理事より、下記の点について報告がなされた。

- 1) 若手研究者交流会開催報告
- 2) 第77回大会について
- 3) 若手の会登壇者の広島大学高等教育研究開発 DPへの寄稿等について

### 6. 國際委員会報告

相澤理事より、下記の点について報告がなされた。

- 1) 2025年の台湾教育社会学会への招聘について
- 2) 2025事業年度の英語特設部会の開催について
- 3) オンライン国際会議(7月31日)の公募について
- 4) 國際委員会委員長代理の設置について

### 7. 選挙管理委員会報告

油布委員長より、下記の点について報告がなされた。

- ・5/11第2回管理委員会の開催について
- ・会員数・有権会員数の確認について
- ・3期連続代議員(理事)の確認／被選挙権がない者の確認
- ・地区ごとの選挙人数について
- ・選挙の事前テストについて

### 8. 大型プロジェクト特別委員会報告

中村理事より、プロジェクトの具体的進捗についての報告がなされた。

### 9. 大会実行委員会報告

白川理事より、次回大会開催の詳細がなされた。

### 10. その他

- (1) 2025事業年度地区活動の推進について(事務局)
- 酒井会長より、地区活動推進についての報告がなされた。

2024事業年度第5回理事会(2025年7月26日:Web会議システム利用開催)

理事総数21名中17名出席

議長:酒井朗

#### I. 会長挨拶

酒井会長より、理事会構成員に挨拶があった。

#### II. 定足数確認

議長の酒井会長より、本日の理事会への出席理事数が定款に定める定足数を満たしていることが確認された。

#### III. 大会校理事挨拶

木村大会校理事が欠席のため、本事項は割愛する旨が酒井会長より示された。

### IV. 前回議事録の確認

酒井会長より、前回の議事録に関する確認がなされた。

### V. 事務局長報告

山田事務局長より、2025事業年度第1回臨時代議員総会において承認された定款の一部改正について、改正部分に関して報告がなされた。

### VI. 議題

#### [決議事項]

1. 2025事業年度事業計画について(事務局長)  
山田事務局長より、2025年度事業計画について説明があった。本決議事項について、異議がないことを確認のうえ、承認された。
2. 一般会計から特別会計への繰り入れについて(会計部)  
小川理事より、一般会計から特別会計への繰り入れについて、資料3に基づき説明がなされた。本決議事項について、異議がないことを確認のうえ、承認された。
3. 来年度予算について(会計部)  
会計部の小川理事より、来年度予算について第一次案からの変更点等の説明がなされた。本決議事項について、異議がないことを確認のうえ、承認された。
4. 前回理事会以降、7/5までの入会申込者の承認について(会員管理部)  
小野理事より、前回理事会以降、7/5までの入会申込者について提示がなされた。本決議事項について、異議がないことを確認のうえ、承認された。
5. 國際委員会委員長代理職の設置と任命について(國際委員会)  
相澤理事より、國際委員会委員長代理職の設置と任命について、説明がなされた。本決議事項について、異議がないことを確認のうえ、承認された。
6. 台湾教育社会学会からの招聘者の大会参加費用免除について(國際委員会)  
相澤理事より、台湾教育社会学会からの招聘者の大会参加費用免除について説明がなされた。本決議事項について、異議がないことを確認のうえ、承認された。
7. その他  
<教員養成政策に関する学会の対応について>検討依頼「教育社会学のプレゼンスと教員養成を考えるワーキンググループ」の油布会員より、教員養成政策に関する学会の対応について検討依頼がなされた。中村理事からも緊急性の高い事案である旨の報告がなされた。本学会としても検討していくことについて、異議がないことを確認のうえ、承認された。

#### [報告事項]

1. 2025・2026事業年度代議員・役員選挙結果報告(選挙管理委員会)  
油布委員長より、2025・2026事業年度代議員・役員選挙結果について報告がなされた。
2. 会計部報告  
小川理事より、下記の点について報告がなされた。
  - 1) ガリレオからの5~6月分事務委託費請求について
  - 2) 次期会計部への申し送り事項について

3. 会員管理部報告

小野理事より、下記の点について報告がなされた。

検討する旨の報告がなされた。

(事務局長：多賀 太)

- 1) 前回理事会以降、7/5までの退会者の報告

- 2) 現会員数の報告（7/5時点）

4. 国際委員会報告

相澤理事より、下記の点について報告がなされた。

- 1) オンライン国際会議（7月31日）について
- 2) 2025年年次大会における英語特設部会について
- 3) 国際交流方針の見直しについて

5. 広報部報告

立石理事より、下記の点について報告がなされた。

- 1) 『教育社会学研究』第113集のJ-STAGEでの公開について
- 2) ウェブサイトについて
- 3) 会員一斉メールについて

6. 年次研究大会支援部報告

白川理事より、下記の点について報告がなされた。

- 1) 大会プログラムへの広告出稿依頼について

7. 編集委員会報告

倉石理事より、下記の点について報告がなされた。

- 1) 116集の刊行について
- 2) 117集の編集状況について
- 3) 118集について

8. 大型プロジェクト特別委員会報告

中村理事より、下記の点について報告がなされた。

- 1) プロジェクトの具体的進捗について

9. その他

(1) 研究委員会報告

研究委員会の平沢理事より、下記の点について報告がなされた。

- ・研究委員会資料
- ・教社プログラム草案
- ・教社プログラム草案（ポスター発表部会）
- ・教社プログラム草案（司会候補）

なお、国際委員会の相澤理事より、年次研究大会時の台湾教育社会学会からの訪問予定者数について共有がなされた。

(2) 学会賞選考委員会報告

学会賞選考委員会の天童副委員長より、下記の点について報告がなされた。

- ・学会賞選考委員会報告書
- ・トラベルグランント採択者一覧

(3) 教育部報告

教育部の村澤理事より、下記の点について報告がなされた。

- ・教育部資料
- ・若手研究者交流会開催案内

(4) 倫理委員会報告

倫理委員会の片岡副委員長より、パブリックコメントの結果および新規程「不正な研究および差別・ハラスメント等の認定・処分を受けた会員に対する要請」（案）について報告がなされた。また、新規程および倫理ガイドラインの改訂については継続して

## 寄贈図書

Nb.	著者	書名	判型	頁数	本体価格	出版社	発行年月日	寄贈者
1	岡幸江、内田光俊、荻野亮吾、丹間康仁、池谷美衣子、森村圭介著	ポストコロナの公民館：22の問い合わせから考える	A5	80頁	900円	大学教育出版	2025年2月	著者
2	荻野亮吾、近藤牧子、丹間康仁編著	地域学習支援論：学び合える社会関係のデザイン	A5	252頁	2,300円	大学教育出版	2025年3月	著者
3	葛城浩一著	ユニバーサル化時代の大学はどうあるべきか：ボーダーフリー大学の社会学	A5	236頁	3,000円	玉川大学出版部	2025年4月	出版社
4	園山大祐編著／ソッティーレ・マルコ監訳	移民の教育政策を制度から問い合わせ：フランスにみる新規移民からその子孫まで	A5	420頁	5,800円	勁草書房	2025年3月	出版社
5	松下佳代、川地亜弥子、森本和寿、石田智敬編著	ライティング教育の可能性：アカデミックとパーソナルを架橋する	A5	324頁	3,000円	勁草書房	2025年4月	出版社
6	元森絵里子著	はじめての子ども論：子ども親の歴史社会学	A5	250頁	2,200円	有斐閣	2025年4月	著者
7	中村高康、刈谷剛彦編	コロナ禍と日本の教育：行政・学校・家庭生活の社会学的分析	A5	274頁	4,600円	東京大学出版会	2025年4月	出版社
8	太田拓紀著	「だれが教師をめざすのか」の教育社会学：「観察による徒弟制」と教員養成	A5	208頁	2,700円	学文社	2025年3月	著者
9	石岡尚著	一〇〇年前の「入試改革」：一九二〇年代中等学校入学難問題にみる教育と選抜	A5	288頁	4,000円	勁草書房	2025年6月	著者
10	河野誠哉著	個性幻想：教育的価値の歴史社会学	四六	272頁	1,750円	筑摩書房	2024年11月	出版社
11	鵜川明子、服部美奈編著	東南アジアのリバース・ジェンダー・ギャップ：進む女性の高学歴化は何を意味するのか	A5	264頁	2,700円	明石書店	2025年6月	出版社
12	武藤浩子著	「主体性」はなぜ伝わらないのか	新書	208頁	900円	筑摩書房	2025年7月	出版社
13	園山大祐編	若者たちが学び育つ場所：ヨーロッパの早期離学対策の現場から	A5	280頁	3,300円	ナカニシヤ出版	2024年12月	出版社
14	伊藤駿著	インクルーシブ教育の比較社会学：日本とスコットランドの実践から	A5	308頁	4,200円	ナカニシヤ出版	2025年3月	出版社
15	川北稔著	社会的孤立の支援と制度：ひきこもりの20年から多元的包摂へ	A5	356頁	4,000円	青弓社	2025年5月	著者
16	批判的犯罪学研究会編	批判的犯罪学：刑事司法と犯罪研究を問い合わせ	四六	280頁	2,600円	ちとせプレス	2025年9月	出版社
17	天野謙著	保育はジェンダーを語らない：不可視・不可避の性と語りなおしの実践	四六	240頁	1,800円	かもがわ出版	2025年8月	出版社
18	三好登著	留学生の大学進学支援と学生募集戦略：日本での就職を見据えて	A5	186頁	3,200円	広島大学出版会	2025年9月	著者
19	岡本智周編著	多様性（いろいろ）と凝集性（まとまり）の社会学：共生社会の考え方	四六	272頁	2,800円	太郎次郎社エディタス	2025年10月	出版社
20	打越文弥、本田由紀編	進学校の進路選択とジェンダー：高校生たちの描く未来	四六	200頁	2,300円	大月書店	2025年9月	出版社
21	前田拓也、山北輝裕、川端浩平編著	構造的差別のアリティ：エッジをゆくノ開拓を書く	A5	362頁	3,800円	晃洋書房	2025年7月	出版社
22	宮田りい著	トランジエンダーの生活史：多様なジェンダー形成を切り開くために	四六	182頁	2,500円	晃洋書房	2025年9月	出版社

---

**新入会員／所属変更**

---



学会への連絡および各種手続きに関しては以下まで  
お願ひいたします。

●学会事務局

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2-401  
ガリレオ学会業務情報化センター内  
一般社団法人日本教育社会学会  
E-mail : g003jses-mng@ml.gakkai.ne.jp

●プリテン編集部

若槻 健(広報部長)  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35  
関西大学  
E-mail : w-ken@kansai-u.ac.jp

●ウェブサイト

URL : <https://jses-web.jp/>

一般社団法人 日本教育社会学会 会報 No.183

2025年12月9日発行

---

発行 一般社団法人日本教育社会学会

会長 酒井 朗

編集 一般社団法人日本教育社会学会事務局広報部

---

印刷 タマタイプ

〒208-0002 武藏村山市神明2-78-1

Tel : 042-562-0965 Fax : 042-566-1084